



Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model

Yi, Qinquizi

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2019-03-25

(Date of Publication)

2020-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7486号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007486>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式 3)

論文内容の要旨

専攻領域 看護学

専攻分野 家族看護学

氏 名 易 覃秋子

論文題目

Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model (保健医療専門職者間の家庭内高齢者虐待に対する認識の比較研究：KAB (Knowledge, Attitude, Behavior) モデルに基づいた分析)

論文内容の要旨

背景と目的：保健医療専門職者は、日々の実践をとおして高齢者とその家族から信頼を得ることができ、家族の全体像を把握しやすい立場にあり、高齢者虐待のアセスメントと支援に重要な役割を担う。高齢者虐待の判断、通報、支援において、保健医療専門職者は重要な役割を担うが、高齢者虐待に対してどのような認識をもっているかについて明らかにされていない。そこで、本研究は KAB (Knowledge, Attitude, Behavior) モデルを用いて、保健

医療専門職者がもつ家庭内高齢者虐待に対する認識を明らかにし、職種間で比較検討することを主な目的とした。さらに、保健医療専門職者がもつ認識と保健医療専門職者の属性との関係、および高齢者虐待問題における KAB モデルの有効性についても検証した。

方法：本研究は、家庭内高齢者虐待に関わった経験がある訪問看護師、医師、介護支援専門員、介護福祉士、保健師、社会福祉士の合計 311 名を対象として、属性、家庭内高齢者虐待に関する知識・態度・行動に関わる項目で構成した自記式質問紙調査を行った。異なる保健医療専門職者間の家庭内高齢者虐待に関する認識の違いを検討するために、データの正規分布を検証した上で、一元配置分散分析とテューキーの検定、クラスカル-ウォリス検定とスティール・ドゥワス法を使用した。また、ステップワイズ法による重回帰分析をもとに、保健医療専門職者がもつ認識と属性との関係を検証するとともに、共分散構造分析を用いて、KAB モデルは保健医療専門職者がもつ認識を正確に予測できるかどうかを検討した。

結果：家庭内高齢者虐待に関する知識 ($\chi^2=60.8$, $p<.001$)、態度 ($\chi^2=69.9$, $p<.001$)、行動 ($F=19.7$, $p<.001$) においては、職種間で有意差を認めた。具体的には、医師は知識レベルが一番低く、訪問看護師以外の他職種より有意に低かった。高齢者虐待に関する態度では、保健師と社会福祉士は互いに有意差はな

く、他の4職種に比べると有意に高かった。また、行動においては、介護支援専門員、保健師、社会福祉士は互いに有意差はなく、他の3職種に比べると有意に高かった。ステップワイズ法による重回帰分析の結果、年齢 ($\beta = -.13, p = .034$) は家庭内高齢者虐待に関する知識を予測する因子として抽出され、負の関係を示した。また、家庭内高齢者虐待に対する態度では、性別 ($\beta = .11, p = .031$) と高齢者介護に関わった経験年数 ($\beta = .14, p = .011$) が予測因子として抽出され、家庭内高齢者虐待に関する行動では、高齢者介護に関わった経験年数 ($\beta = .20, p < .001$) を唯一の予測因子として抽出された。共分散構造分析を用いた KAB モデルを検討した結果、KAB モデルは強い適合度を示し、さらに、知識 ($\beta = .26, p < .001$) は態度に正の関係を示し、態度 ($\beta = .33, p < .001$) も行動に正の関係を示した。

考察と結論：多職種間の連携を促進するためには、各保健医療専門職者の役割を見直し、高齢者の権利擁護をさらに積極的に関与できるように工夫する必要があると考えられる。また、KAB モデルは強い適合度が得られ、保健医療専門職がもつ認識を正確に予測できることから、今後、保健医療専門職者に高齢者虐待への対応について教育する際には、KAB モデルを枠組みとして用い、知識レベルの向上だけでなく、知識を受けることによる態度の変化や、彼らの態度そのものにも焦点をあてるべきである。

指導教員氏名：法橋尚宏 教授

氏名	易 覃秋子		
論文題目	Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model (保健医療専門職者間の家庭内高齢者虐待に対する認識の比較研究：KAB (Knowledge, Attitude, Behavior) モデルに基づいた分析)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	法橋 尚宏
	副査	教授	和泉 比佐子
	副査		印
副査			印
要 旨			
<p>本研究の目的は、家庭内高齢者虐待に関わった経験をもつ保健医療専門職者（訪問看護師、訪問医、介護支援専門員、介護福祉士、保健師、社会福祉士）を対象とし、合計 311 名がもつ家庭内高齢者虐待に関する知識、態度、および行動に対する認識を明らかにし、職種間で比較検討すること、この概念枠組みとする KAB (Knowledge, Attitude, Behavior) モデルを検証することである。分析の結果、家庭内高齢者虐待に関する知識、態度、および行動において、6 つの職種間で有意差を認め、保健師と社会福祉士は家庭内高齢者虐待に関する知識、態度、および行動に対する認識が高かった。KAB モデルは強い適合度を示し、さらに、知識は態度に有意な正の関係、態度も行動に有意な正の関係を示した。以上より、高齢者虐待への支援を促進するためには、保健師と社会福祉士をリーダーとしての立場に位置付けたチーム作りが必要である。さらに、KAB モデルの検証から、知識を重要視すべきことが示され、積極的な高齢者虐待への支援を行うためには、保健医療専門職者個々の知識だけでなく、虐待対応チーム全体としての高齢者虐待に関する知識を向上させることが重要であることが示唆された。</p> <p>論文審査においては、上記の点などについて質疑応答を行い、学位申請者から説明を受け、本論文の独創性とその意義を認めた。とくに、今後の虐待対応チームによる高齢者虐待への支援を積極的に行える体制づくりへの知見が得られた功績は大きい。</p> <p>総合的に判断し、学位申請者の易覃秋子氏は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める</p>			
<p>掲載論文 Yi, Q., & Hohashi, N. (2018). Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model. <i>PLoS ONE</i>, 13(11), e0206640. doi:10.1371/journal.pone.0206640</p>			